

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 4 部門第 1 区分
【発行日】平成 16 年 10 月 28 日 (2004.10.28)

【公表番号】特表 2001-506327 (P2001-506327A)
【公表日】平成 13 年 5 月 15 日 (2001.5.15)
【出願番号】特願 平 9-540016
【国際特許分類第 7 版】

E 2 1 B 21/06

B 0 1 D 33/04

【F I】

E 2 1 B 21/06

B 0 1 D 33/04 A

【手続補正書】
【提出日】平成 15 年 10 月 7 日 (2003.10.7)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】補正の内容のとおり
【補正方法】変更
【補正の内容】

手続補正書

平成15年10月7日

特許庁審査官 殿

1. 事件の表示

平成9年特許願第540016号



2. 発明の名称

掘削泥水分離システム

3. 特許出願人

住 所 アメリカ合衆国、ルイジアナ 70605

レイク チャールズ リヴァーレーン 2

氏 名 ウィリアムズ ジェイ. テレル

4. 代理人

住 所 郵便番号 105-0003

東京都港区西新橋3丁目15番8号 西新橋中央ビル

電 話 (03) 3437-2560

FAX (03) 3433-8776

氏 名 (7051) 弁理士 桑原英明



5. 補正の対象書類名

1) 明細書

2) 請求の範囲

6. 補正の項目名

1) 発明の名称 及び 2) 請求の範囲

7. 補正の内容

1) 発明の名称を「掘削泥水分離システム」に変更
します。

2) 請求の範囲を別紙の如く訂正します。

方 式 査
審

請求の範囲

1. 掘井流体と掘削泥水を掘削井から固形物処理装置に導く掘削泥水分離システムにおいて、掘井流体と掘削泥水から大きな粒子分離する掘削泥水分離装置が；

前端部、後端部及び交差部材により結合された横方向に対向する側方部を有する前方枠体を有するほぼ矩形の枠体と；

前端部、後端部及び交差部材により結合された横方向に対向する側方部を有する後方枠体と；

前記前方及び後方枠体が長手方向軸線に沿って互いに摺動自在に入れ子式に結合されており；

前記前方枠体の前端部に回転自在に装着される前方回転駆動手段と、該回転駆動手段が前記枠体の長手方向軸線に対して直交する軸心まわりに回転し；

前記後方枠体の後方端部に回転自在に装着された後方回転手段と、該後方回転手段が前記枠体の長手方向軸線に直交する軸心まわりに回転し；

前記前方及び後方駆動手段まわりにループ状に延在する複数の開口を含む連続するベルトと、前記ベルトが前記回転駆動手段と係合しかつ前記枠体の長手方向軸線に沿って動く連続する通路内を駆動し；

前記後方及び前方枠体間に結合された張力手段とを備え、該張力手段が前記両枠体を互いに相対的に動かしかつ前記回転駆動手段と前記後方回転手段を前記枠体の長手方向軸線に沿い互いに相対的に動かし前記ベルト内の張力を調整し；

かくして、掘井流体と掘削泥水とが移動する前記ベルト上に掘削井から導かれ、前記ベルトの開口より小さな液状体と

粒子がベルトの開口を貫通しかつ前記開口より大きな液状体と粒子が前記ベルトにより運ばれ、前記回転駆動手段まわりを前記ベルトが通過するとき排出させられることを特徴とする掘削泥水分離装置。

2. 前記回転駆動手段が前記枠体の前方端と交差するよう横方向に延在する第1の円筒状ローラを有し、該ローラが対向側方部で軸承される心棒を有し；

前記後方回転手段が前記枠体の後方端と交差するよう横方向に延在する第2の円筒状ローラを有し、該ローラが対向側方部で軸承される心棒を有し；

前記連続するベルトが前記第1と第2のローラまわりにループ状に巻回された網状スクリーンベルトを有し、前記枠体の長手方向軸線に沿って動く連続する通路内を駆動させられるよう前記両ローラ間で引っ張られる請求項1記載の掘削泥水分離装置。

3. 前記回転駆動手段が前記枠体の前方端を横切って延在しかつ前記枠対の対向側方部に軸承される心棒に固定された対の横方向に離間した歯付きスプロケットを有し；

前記後方回転手段が前記枠体の後方端を横切って延在しかつ前記枠対の対向する側方部に軸承される心棒に固定された対の横方向に離間したローラを有し；

前記連続するベルトが複数の横方向に平行に離間したロッド及びロッド間の開口より形成されたチェーンベルトを有し、該チェーンベルトが前記歯付きスプロケットと前記ローラとにループ状に巻回される互いに結合したリンクを有し；

前記リンクが前記スプロケットに係合され、複数個の前記リンクが前記枠体の長手方向軸線に沿う通路内を動くよう駆動させられる請求項 1 に記載の掘削泥水分離装置。

4. 前記張力手段がピストンロッド付きの少なくとも 1 つの流体シリンダを備え、該シリンダが弁手段を介して流体圧力源に接続され、前記ピストンロッドの前記シリンダに対する出入れを行い；

前記シリンダが前記前方枠体と後方枠体との間に結合され、前記ベルトに張力を与えかつ張力を保つよう該シリンダが前記両枠体の相対的動きを可能にする請求項 1 に記載の掘削泥水分離装置。